

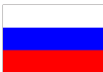
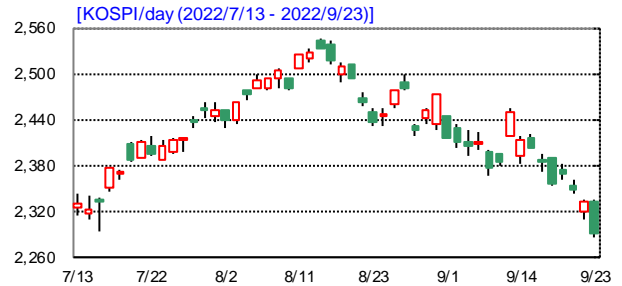


## 【韓国】 総合指数は週間で3.9%安と大幅に6週続落、今週も軟調か

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で3.9%安と大幅に6週続落。積極的な買いにつながる目新しい材料が見当たらない中、総じて軟調に推移した。週明け19日はFOMCを前に様子見ムードが強まり、4日続落。20日は前日の米株高に追随して5日ぶりに反発したが、上値は重かった。21日は反落。1-20日の輸出が前年同期比で減少し、貿易赤字となったことが嫌気された。週後半も軟調。FOMCで積極的な利上げの継続が示唆されたことで世界的な景気減速への懸念が強まり、23日終値は心理的節目の2300ポイントを下抜け、20年10月30日以来、約1年11カ月ぶり安値だった。今週も軟調な展開が予想されるが、値ごろ感に注目した買いが入る可能性も。国内では27日に消費者信頼感指数、29日に業況判断指数がそれぞれ発表される予定。

▼指数チャート

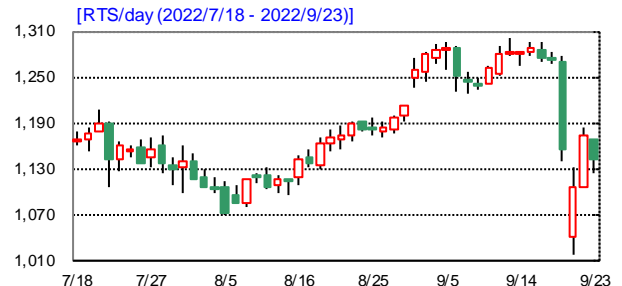


## 【ロシア】 RTS 指数は週間で10.4%安と急反落、今週も地政学リスクが重しか

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で10.4%安と急反落。ウクライナ情勢や戒厳令への警戒感で急落した。週明け19日は前週末比0.2%安で、20日はロシアがウクライナの支配地域で併合のための住民投票を計画したことやロシア国内での戒厳令発令への警戒感で9.3%安と急落。21日は4.1%安と大幅に続落した。22日は配当を好感したガスプロムとタトネフチが急伸し、指数は6.1%高と反発したが、23日は原油安も嫌気され2.8%安と反落した。指数は21日に一時1017.86ドルまで下落し、4月27日以来の安値を付けた。個別銘柄ではエネルギーのノバテック、ロスネフチ、ルクオイル、金融のズベルバンク・オブ・ロシア、資源のノリリスク・ニッケルといった主力株が軒並み2桁安となった。今週は引き続き地政学リスクが重しか。

▼指数チャート

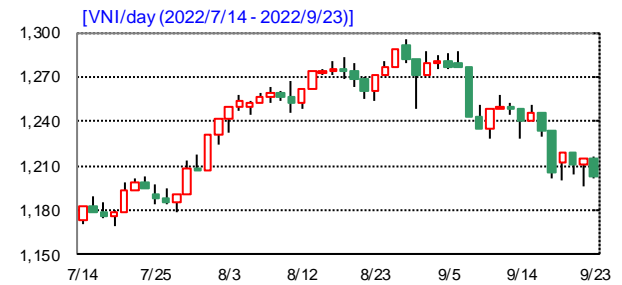


## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で2.5%安と4週続落、今週はもみ合いか

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で2.5%安と4週続落。大幅利上げが予想される米FOMCへの警戒感から週明けに大きく下落した。週初の19日は前週末比2.3%安と大幅に続落。21日に結果が発表される米FOMCへの警戒感から金融株を中心に売りが強まった。20日は押し目買いで1.1%高と反発したものの、その後も主要中銀の積極的な利上げ姿勢が嫌気され、上値の重い展開となった。指数は22日に一時1196.64ポイントと7月28日以来の水準まで下落した。個別銘柄では金融のバオ・ベトナム・ホールディングスが4.3%高となった一方、不動産のカンディエン不動産が7.7%安、公益のペトロベトナム電力総公社が6.0%安、金融のベトコムバンクとゴム製品のベトナム・ラバーがともに5.1%安となり指数を押し下げた。今週はもみ合いか。

▼指数チャート



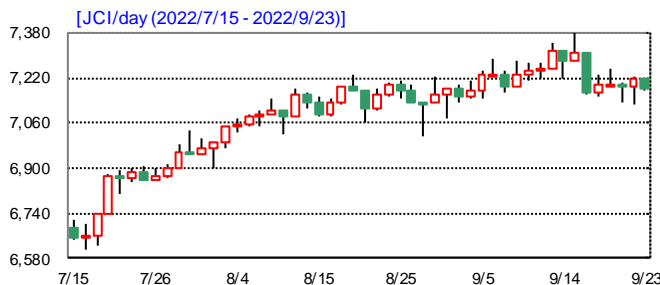


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】**ジャカルタ総合指数は 0.1%高、中央銀行が 2 会合連続の利上げを決定

ジャカルタ総合指数は週間で 0.1%高と小幅反発。7200 ポイントを挟んでもみ合った。週初の 19 日は金融株が指数上昇をけん引して反発。20 日に小幅続伸した後、21 日は米国で開催中だった FOMC で大幅利上げが実施されるとの見方が強まり、景気減速への懸念が広がった影響で反落した。一方、22 日は前日の NY ダウが 0.75%の利上げ決定を受けて下落したほか、インドネシア中央銀行も政策金利を 0.50%引き上げたものの影響は軽微で、指数は終値で 7200 ポイント台を回復。ただ、23 日は反動で売られ、この水準を割り込んで引けている。今週は FRB 当局者の発言や 9 月のユーロ圏 CPI が意識されそうだ。

### ▼指数チャート

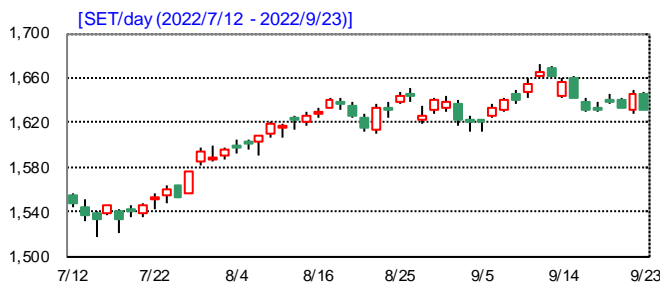


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】**SET 指数は 0.1%高、今週は 28 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

SET 指数は週間で 0.1%高と小幅反発。週末の反落が上昇幅を縮めた。週初の 19 日は、エネルギー株が指数を支え 5 営業日ぶりに小幅反発。20 日も買い優勢の展開となったが、21 日は米 FOMC 後の声明発表を目前に控えた様子見で反落した。22 日は銀行銘柄を中心に大型株が買い戻された効果で反発したが、23 日は新型コロナ対策として政府が発令していた非常事態宣言を 10 月 1 日に解除する方針が発表されたものの効果は薄く、反落して引けている。今週は 26 日の 8 月の貿易統計（通関ベース）に続き、29 日に鉱工業生産が発表されるほか、28 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

### ▼指数チャート

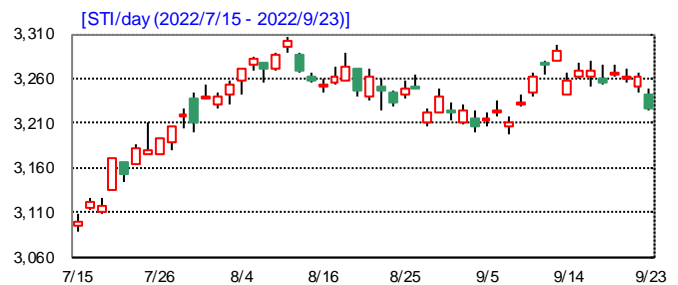


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】**ストレーツタイムズ指数は 1.3%安、CPI 上昇率の高止まりを嫌気

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.3%安と 3 週ぶりに反落。週末の下落が指数を押し下げた。週初の 19 日は、前週末の NY ダウが利上げ加速に対する警戒感から下落した流れを引き継ぎ、3 営業日ぶりに反落。その後は狭いレンジで一進一退の値動きが続いたが、23 日は 8 月の CPI 上昇率が前年同月比 7.5%と市場予想の 7.2%を上回ったことが嫌気され、指数は前日比 1.1%安と下値を広げて取引を終えた。今週は 26 日発表の鉱工業生産に対する市場の反応が焦点。外部要因では中国の 9 月の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI が景況感の分岐点となる 50 ポイントを回復すれば、株式相場の支援材料になりそうだ。

### ▼指数チャート

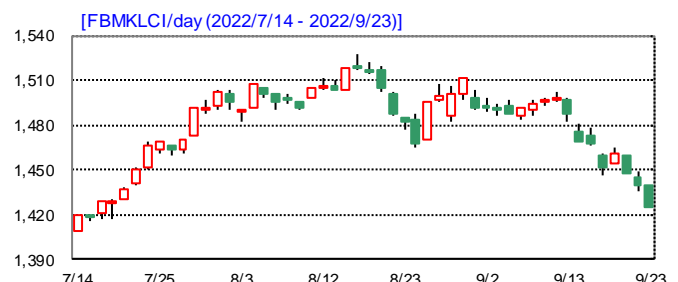


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】**クアラルンプール総合指数は 2.9%安、8 月の CPI 上昇率は 16 カ月ぶりの高水準

クアラルンプール総合指数は週間で 2.9%安と続落。さえない値動きが続いた。連休明けの 19 日は前週から下げ止まらず、前営業日比 1.1%安と 4 日続落。20 日は 8 月の輸出額が前年同月比 48.2%増、輸入額が 67.6%増と高い伸びを示し、貿易収支が市場予想から上振れした効果などで反発したが、21 日は前日の NY ダウが長期金利の上昇を受けて下落した流れで、指数は前日比 1.0%安と反落した。22 日は米国の大幅利上げ継続が嫌気されて続落すると、23 日は 8 月の CPI 上昇率が前年同月比 4.7%と高止まりした影響で 3 日続落して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右しそうだ。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。